

零号ホロウ内に調査に来ていた蒼角と○○は  
突然足元に現れた裂け目に落下してしまった。  
その後、外部との連絡もできず、食料も尽きていた。。。

「もうずっと何も食べてなくて我慢できない〜!」

「元はと言えば蒼角さんが非常食を食べ続けてたせいで  
すぐ無くなっちゃったんじゃないですか!」

「…それよりなんで僕のズボン剥いで  
全裸で上に乗ってるんですか?」

はあ♡

「ん〜。よくわかんないけどこれならお腹満たせるような気がして…  
あと体が熱いし、下濡れちゃったから服は脱いだよ〜」

「ええ…。」

スリ♡  
スリ♡  
スリ♡  
♡ちゅ♡

「それじゃ早速 ○○君のいただきまーす！  
んあっー！♡」

「…わあああああ」





「まづいそろそろ出そう！ 抜いてくださいー！」

「♡♡♡そのまま私の中に出して出して♡♡♡」

はあ♡

はあ♡

「(蒼角さんの力が強すぎて脱出できない!)  
もうだめだ! 出る!」







『さっさと出てるな♡  
君のお腹が満たされていくのが分かるよー♡』

「……出るのが止まらない!」



「はあはあ…… やっと収まった」

「うーん まだまだ足りないなあ」

「まさか まだやるんですか……?」

「もっと食べさせてー!」

「いやさすがに一回休ませて…… っ……」

エロ



その時急に体に異変が現れ始めた

「そんな……体に結晶が。まだ侵蝕まで時間があったはずなのに……まさか性行為で疲弊したから？」

「私も背中が少しムズムズするけど大丈夫だよー！早く続きをやるっ！♡」

「……蒼角さん？何を言って……」



「っっ！ ぐあああああ！ そんな急に！」

「どうせこのまま待つても助けは来ないんだし  
侵蝕は止められないよー？  
だったら今のうちにもっと食事したーいー！♡」

「……」



数分後

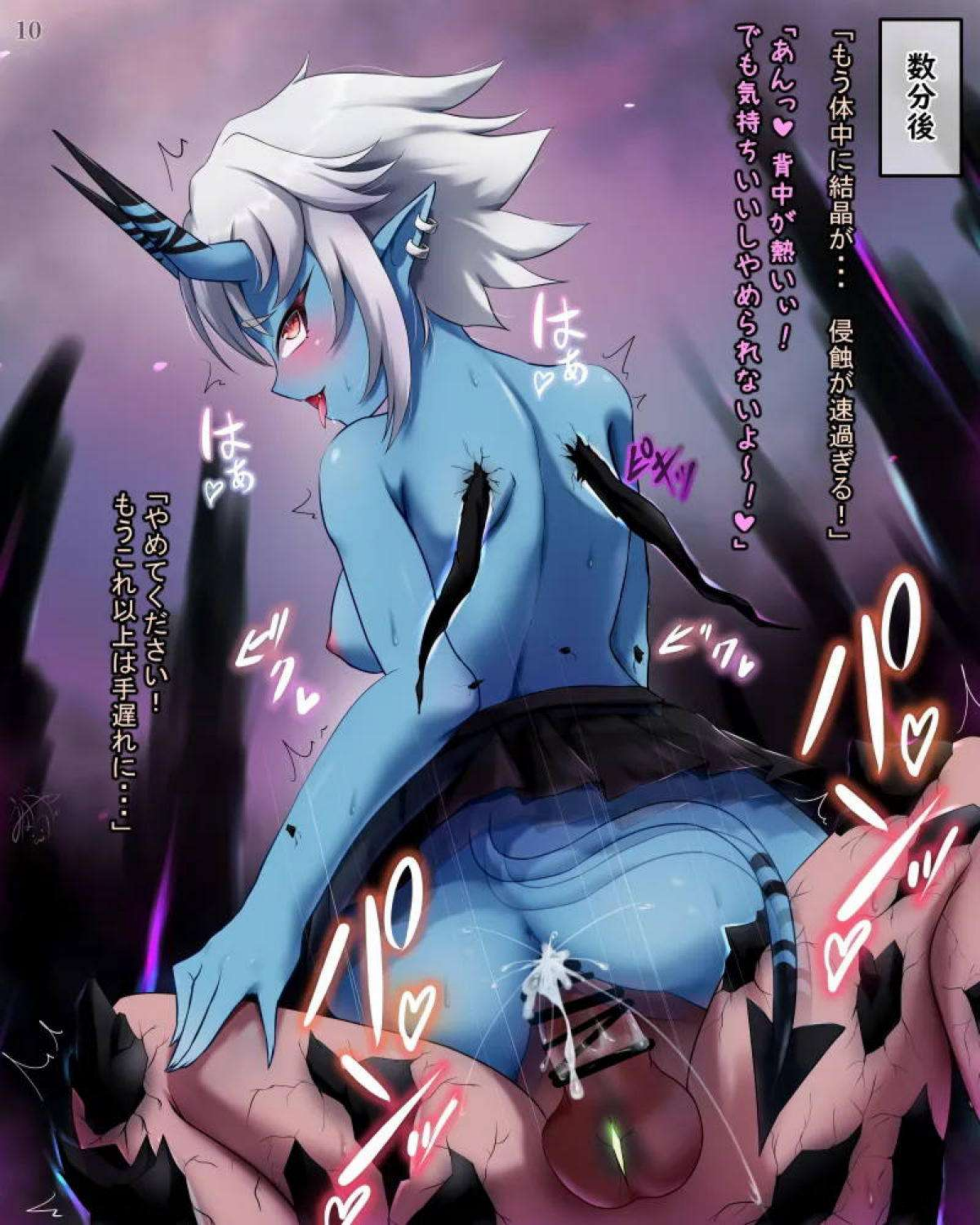
「もう体中に結晶が… 侵蝕が速過ぎる!」

「あんっ♡背中が熱いら!」  
「でも気持ちいいしやめられないよー♡」

はあ♡

はあ♡

「やめてください!」  
「もうこれ以上は手遅れに…」

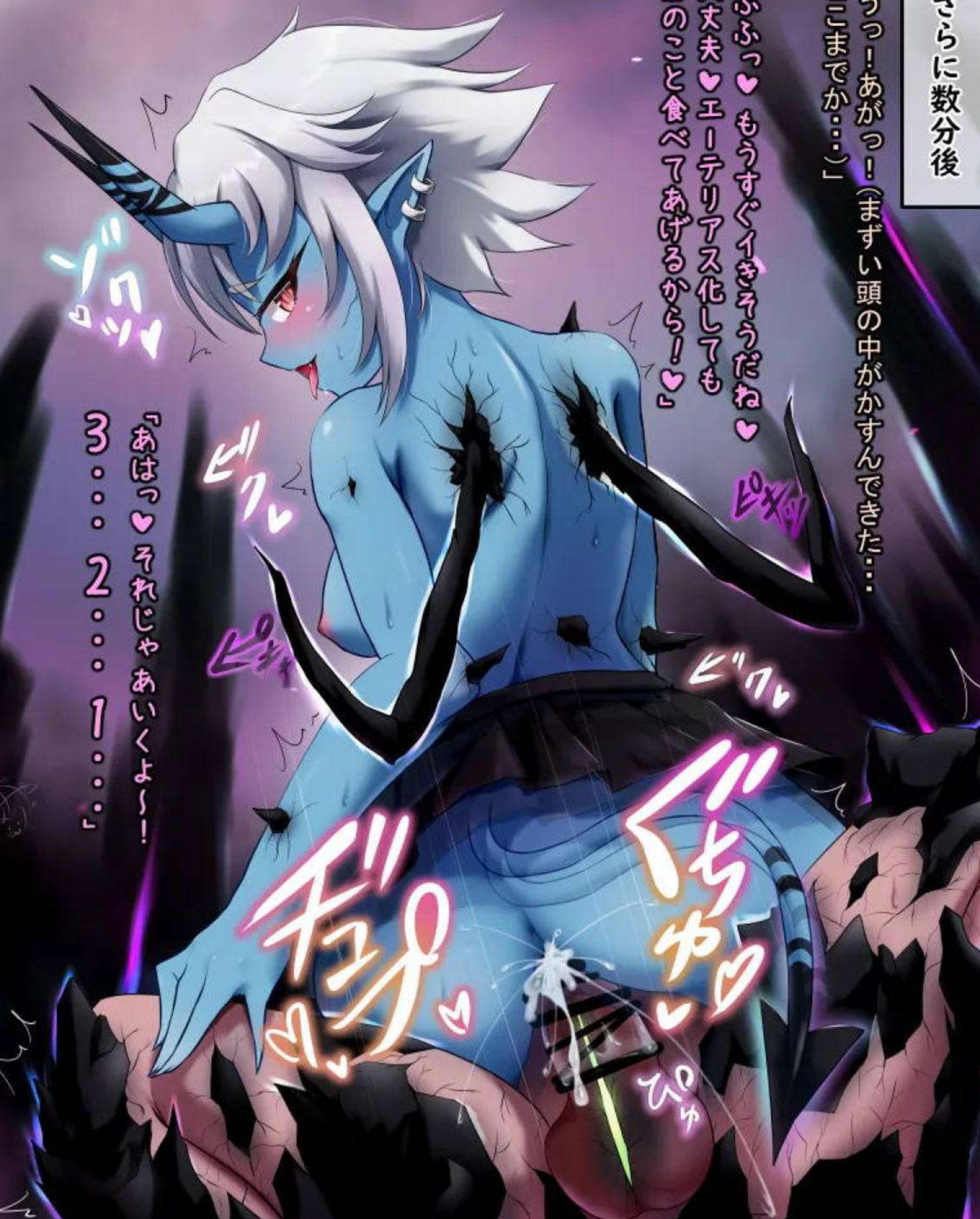


さらに数分後

「うっ！あがつ！(まずい頭の中がかすんできた……  
「」」までか……)」

「ふふっ♡♡もうすぐイキそうだね♡  
大丈夫♡エーテリアス化しても  
君のこと食べてあげるから!♡」

「あはっ♡♡それじゃあいくよー…  
3……2……1……」





「来たああああ！  
んあああああああんっ！」

「うあああああああ……」

とび

とび

とび





「...はあはあ♡気持ちよかったあ♡  
あ、○○君完全に  
エーテリアス化しちゃった...」

「このまま拘束解いたら襲われちゃうなあ...  
まだまだお腹一杯になってないし  
このまま食べ尽しちゃおっと!♡」



どろろ  
ガッパッ

その後、零号ホロウ内で  
やらせてくれる  
エーテリアスがいるとの  
噂が広まり  
無理やりホロウ内に  
入ろうとする者が続出。  
行方不明者が  
後を絶たなかった。

結果的に蒼角達の搜索は  
打切られ、零号ホロウは  
無期限封鎖されることになった。

The End